ルーテル学院だより

NO.155
2023.12.1

| 発　行 | ルーテル学院大学・日本ルーテル神学校
〒181-0015 東京都三鷹市大沢3-10-20
TEL: 0422-31-4611　FAX: 0422-33-6405
| 発行人 | 石居 基夫
http://www.luther.ac.jp/

Classroom 授業探訪

「地域支援技法」

山口 麻衣 教授

地域支援技法は、「地域福祉ファシリテーター養成講座」を受講しながら、地域福祉や地域支援の技法を学ぶ授業です。 地域福祉ファシリテーターとは、住民の立場から、地域の福祉課題や地域の中で支援を必要としている人を発見し、自らが持つ能力や人脈、社会資源を生かしながら、中立の立場で協働を促進する、協創を支援する人々（黒子的リーダー、支援型リーダー）のことを指します。

地域福祉ファシリテーター養成講座は、本学が三鷹市・小金井市・武蔵野市・調布市の自治体及び社会福祉協議会と共催で、4市の市民の方を対象に開催している全国的にもユニークな地域連携型のプログラムです。この講座終了後には、地域の課題に気付き、地域に必要な活動を仲間とともに始められ、 人と人をつなぎ、チームの力を引きだし、多様な人々の思いをまとめ、複数の活動にかかわりネットワークを広げる視野を持つような地域福祉ファシリテーターを養成することを目標としています。コロナ禍で開催できなかった年やオンラインで対応した年もありましたが、今年度は14期生となりました。これまでにも多くの修了生が地域で様々な団体を立ち上げて活動しています。

この講座では、「社会資源について考えてみよう」などの講義を聴くだけでなく、小グループに分かれて、地域の社会資源や福祉課題について考え、解決したい福祉課題と取り組みたい地域活動について話し合います。 地域支援技法を受講する学生は、地域福祉ファシリテーター養成講座に参加し、地域住民とともに「新たな支えあい活動」を検討し、企画開発することを通じて、地域福祉の推進に欠かせない「住民参加」の意義と手法を学びます。 今年度も7名の学生が約30名の各市の市民とともに、体験的な演習や、講座修了生の地域活動を始めた団体との実践交流会、フィールドワーク（活動団体の訪問）、団体を運営している人へのインタビューなど多様な形態での学びを深め、多世代交流をしながら多くを学ぶ実践型の授業となっています。

受講した学生の授業後のフィードバックをみると、「自分の住んでいる地域の地域特性を踏まえながら、地域に必要なものは何かを考えていきたい」、「（ワールドカフェ方式の話し合いでの）授業の気づきを通じて、具体的に行動するアイデアを発見できたため、行動に移していきたいと決心した」などの主体的な学びが得られたことが伝わるものも多くありました。市民の方々と話し合うのは緊張することもあると思いますが、臆することなく議論に参加している様子をみると、将来どのような対人援助職となったとしても、この講座での学びが忘れがたい経験として活きるだろうと思います。

受講する学生は、講座に参加するだけではなく、地域福祉ファシリテーターの役割、住民参加の意義や地域福祉などについて、体験した学びを通して、自分が学んだことや理解を深めたことについて最終的にレポートにまとめます。中立の立場で協働を促進し、協創を支援する真の地域福祉ファシリテーターとなるのは容易ではありませんが、受講した学生が自らも地域福祉ファシリテーターの役割を担うことができ、対人援助者としても地域福祉ファシリテーター的スキルのある専門職となってほしいです。

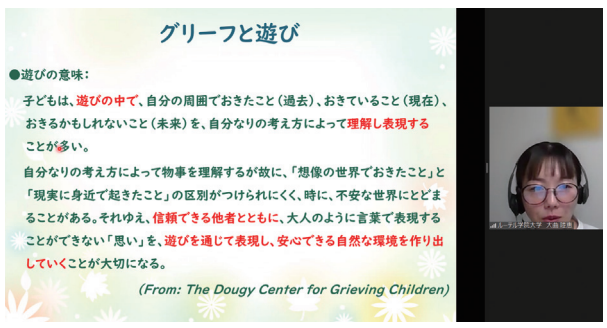
Profile　山口 麻衣 教授

専門分野	高齢者福祉、社会老年学、ケアラー支援研究、社会福祉実践調査
主要担当科目	社会福祉調査、 福祉サービスの組織と経営、社会福祉実践調査、社会福祉調査法、実践評価・実践研究

Feature 特集

ルーテル・リカレント講座報告

事務長　坂田 好和



社会福祉、臨床心理、人間学に関心がある。大学への社会人入学、社会人編入を考えている。大学院進学を考えている。そのような方々の「学びの継続」「学びなおし」のきっかけとなるよう、オンライン講座と授業体験を企画・実施しました。

オンライン講座は、10月7日（土）に「カウンセリング技法の体系的理解と演習」加藤純教授、11月11日（土）に、「子ども、グリーフ、遊び～サポートのための理解～」大曲睦恵 准教授、11月18日（土）に「対人援助における人間理解～スピリチュアルケアとは」石居基夫学長による講座を全3回実施しました。

授業体験は、本学でどんな授業が行われ、どんな学生たちが学んでいるかを知ることができるよう、11月13日（月）～11月17日（金）の1週間の授業に参加できる企画としました。

学部や大学院に受験希望の方、現在の職場で活かしたいと思っている方など、さまざまな方に参加していただきました。

今後も学び直しのきっかけを提供できるよう、企画を実施して参りたいと思います。

News ニュース

クリスマスコンサートを行います

ルーテル学院大学では12月23日（土）、パイプオルガンとトランペットのクリスマスコンサートを行います。キャンドルのきらめくチャペルで、生演奏ならではの特別な時間をお届けします。

日　時	2023年12月23日（土）15時30分受付／16時開演（17時半終了予定）
場　所	ルーテル学院大学チャペル
出　演	山本英助（トランペット）　湯口依子（オルガン）
賛助出演	渡邉公実子（ソプラノ／聖歌隊指揮）　ルーテル学院大学聖歌隊
料　金	一般￥3,500　大学生以下￥1,000（当日学生証を受付にて）

チケットのご購入は下記HPまたはQRコードよりPeatixにて前日までにお申し込みください。
https://peatix.com/event/3725799

お問い合わせ　TEL: 0422-32-2949　Mail: koho@luther.ac.jp

Topics トピックス

11月5日(日) お父さん・お母さん応援講座、相談センターオープンハウスについてのご報告

臨床心理相談センター

2023年11月5日(日)、4年ぶりに対面で公開講座およびオープンハウスを開催しました。

公開講座は臨床心理相談センターとルーテル三鷹教会との共催で、お父さん・お母さん応援講座「ほめて育てるって、どうしたらいいの？」をテーマに、子育て世代のご家族を対象として、具体的なほめ方・しつけ方を練習するワークショップ形式で行いました。参加者は11名。5つのグループに分かれ、ロールプレイなどを通して実践的に学べる構成になっていたため、参加者も座学とは違った和やかな雰囲気を楽しみつつ、熱心にメモを取る方もいらっしゃいました。

同日、臨床心理相談センターで行われたオープンハウスは、地域の方々に相談センターを身近な存在として知っていただくための重要なイベントです。大きく分けて2つの体験を準備しました。

1つ目は子育て相談・カウンセリング体験です。誰かに相談したい・話を聞いてほしいけれど、カウンセリングを申し込むのは、ちょっとハードルが高いと感じている方や、地域社会で孤立しがちな子育て中の保護者向けに、まずは気軽に相談やカウンセリングがどのようなものか体験していただくことが目的です。この体験が、後々正式にお申込みをいただくきっかけになることもあり、多くの方に知っていただく良い機会となりました。今回は2名が参加しました。大学院1年生は初めて面接の陪席に入りましたが、実際の臨床現場で指導相談員がどう面接を進めるのかを目の当たりにし、臨床心理実習(学内実習)を始めるにあたって、よい経験になったと思います。

2つ目はプレイルーム開放、箱庭療法・コラージュ療法体験です。ふだんプレイセラピーを実施しているプレイルームには、おもちゃや絵本などがたくさんあり、学園祭(愛祭)を訪れた子どもたちが元気よく遊んでいました。また「箱庭療法」や「コラージュ療法」という言葉は聞いたことがあるけれど、どのようなことをするのか興味をおもちの方やお子さんに、実際に手を動かして体験していただきました。参加者お一人お一人に大学院1年生がゆっくりと対応しました。子どもたちから「もっと遊びたかった」と名残を惜しむ声も聞かれました。

ソーシャルワーク実習指導Ⅰ プレゼンテーション

福島 喜代子 教授

新しい社会福祉士養成課程のカリキュラムに基づき、ルーテル学院大学では、ソーシャルワーク実習をソーシャルワーク実習Ⅰと同Ⅱに分け、2つの学年にわたって実習を行っています。学生は、少人数のゼミで実習担当の専任教員から指導を受けるソーシャルワーク実習指導Ⅰという科目をソーシャルワーク実習Ⅰと並行して履修します。ソーシャルワーク実習指導Ⅰは前期の科目ですが、5月から7月にかけて行ったソーシャルワーク実習Ⅰを終え、自分たちの体験をもとに、学んだことを消化し、まとめる時間をとるために、夏休みの終盤、後期がはじまる直前に授業日を設け、プレゼンテーションを行うこととしています。今年度は、2023年9月14日木曜日3限に152教室で行いました。履修した学生たちは、社会福祉学領域の教員と、同じ科目を履修している他の学生の前で、プレゼンテーションを行いました。

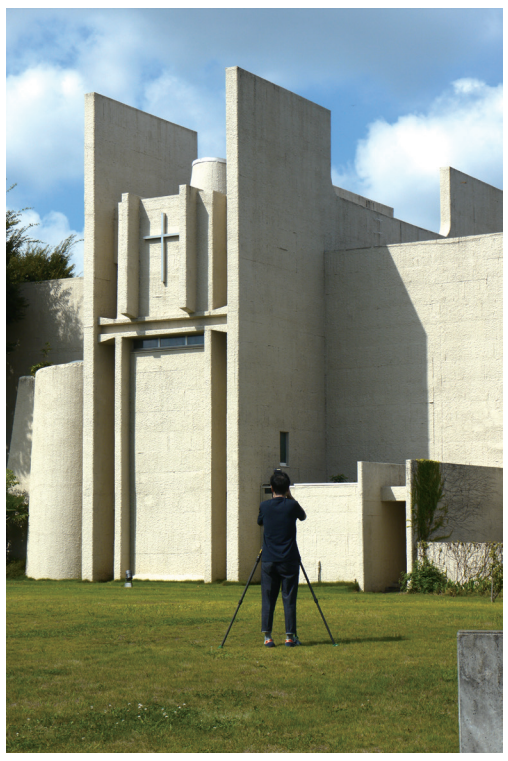
ソーシャルワーク実習Ⅰは、学生が4つのグループに分かれ、大学の近隣市で協力関係にある4市(三鷹市、小金井市、調布市、小平市)の社会福祉協議会に受け入れていただき、実習指導をしていただきました。実習時間は30時間以上ですが、一日あたりの実習時間が比較的短いことも多くあり、多くの学生が10日程度の実習を行いました。

ソーシャルワーク実習指導Ⅰでは、専任教員がそれぞれの市を担当し、前期の間、毎週少人数のゼミを中心に授業を行い、理解を深めてきました。今年度は12名の学生(2年生と3年生)が、学年を超えて協力しあい、実習で体験したことの理解を深めてきました。グループによっては、前日まで事前準備と練習を行い、当日は、グループごとに工夫をしながらプレゼンテーションをしました。パワーポイントを作成して発表したグループもありました。すべてのグループが、聞きやすく、わかりやすい発表をしました。また、発表を終えたあと、聞いていた学生から的確な質問も出され、それに対して発表者が協力しあって答えていました。全体を通して、「住民の主体的な参加」「居場所」「地域課題の解決への取り組み」など、今の社会福祉士に大切な視点をよく理解し、学んだことがわかるプレゼンテーションでした。

ルーテル学院大学では、ソーシャルワーク実習指導Ⅰのプレゼンテーションとは別に、各自が「実習報告書」を作成し、愛祭(ルーテル学院大学の学園祭:11月4－5日)において展示報告をします(注:実習先の許可を得て展示)。グループでのまとめと、個人としてのまとめの両方があることで、学生は重層的に理解を深めています。

News ニュース

毎日新聞「レトロの美」に本学チャペルが掲載



8月27日付毎日新聞「レトロの美」に本学チャペルが掲載されました。記事では、4枚の写真と共に、チャペルをはじめ本館、図書館、寮棟が建築家・村野藤吾によって手掛けられたことや、礼拝堂の祭壇脇には、和風建築でみられる「地窓」が設置されていることが紹介されました。毎日新聞のインターネットサイトにも25枚の写真が掲載されています。毎日新聞「レトロの美」へは下記QRコードからアクセスしていただけます。

https://mainichi.jp/graphs/20230822/mpj/00m/040/066000f/20230822mpj00m040041000p

Teachers 教員紹介

学外のお仕事 田副 真美 教授

私は、この大学で教員よりも2倍以上の期間で医療機関で心理職として現在も働いています。心理職としての資格は、公認心理師(国家資格)、臨床心理士(民間資格)を持っています。

少し、私の心理臨床の経歴と臨床現場の説明をいたします。

大学3年生の時に、日本大学板橋病院心療内科で研修生となり、医師や心理職の先生方から様々なご指導を受け、その後も心身医学領域で心理臨床をしています。現在、慶応義塾大学病院耳鼻咽喉科、獨協医科大学埼玉医療センター子どものこころ診療センターで働き、臨床・教育・研究に取り組んでいます。加えて、日本歯科大学では、学生相談、教職員相談をしています。写真は、患者さんのご了解をいただき、耳鳴患者さんの認知行動療法のグループの様子です。患者さんのご了解をいただき感染に気を付け(一瞬で)マスクを外して、撮らせていただきました。

現在も医療期間で心理臨床を継続している理由の1つは、公認心理師、臨床心理士を養成する大学のため、教員は、その経験や最新の知識などを学生たちに還元することが任務だと思っているからです。今後も、医療領域の心理職として日々自己研鑽を重ね、その経験を教育に活かしていきたいと思います。

ルーテル学院だよりが**リニューアル**しました!

ユニバーサルデザインに配慮したフォントや配色に変更しています。
より見やすく、わかりやすく、情報をお伝えしてまいります。
これからもよろしくお願いいたします。